

後期高齢者医療制度 保険料を改定します

平成 26・27年度の保険料率の変更などについてお知らせします。

◎問い合わせ 市市民課給付係 (☎62-2111内線260)

保険料改定の背景について

県後期高齢者医療広域連合は、今後見込まれる医療費などの推計をもとに、同医療制度の保険料を2年ごとに見直ししています。被保険者数や医療費の増加により財源が不足する見込みとなったことから、平成 26・27年度の保険料率を右記のとおり改定することになりました。

こう変わります

平成 24・25 年度	・均等割額 35,800円 ・所得割率 6.62%
↓	
平成 26・27 年度	・均等割額 38,000円 ・所得割率 7.36%

保険料額は上記の保険料率をもとに、被保険者の所得や被保険者の属する世帯の所得に応じて個別に計算されます。また、所得の低い人などは、一定の要件で保険料が軽減されます。平成26年度の保険料は、7月中旬に送付する「**保険料額決定通知書**」でお知らせします。

安全な水をお届けしています

昨年度の、水道水の水質検査結果についてお知らせします

◎問い合わせ 市水道事務所 (☎62-2111内線351)

平成26年度の検査計画について

本市では、市民の皆さんに「安全でおいしい水」を提供するために、水質検査計画を策定しています。本年度は下記のとおり実施します。

- ◆原水全項目検査＝年1回、20カ所
- ◆浄水全項目検査＝年1回、18カ所
- ◆浄水41項目検査＝年3回、18カ所
- ◆毎月検査＝18カ所
- ◆原水のクリプトスポリジウムま1とジアルジア菌ま2検査＝年4回3カ所、年1回16カ所
- ◆原水の大腸菌けんきせい、嫌気性芽胞菌ぼうほう検査＝年12回、19カ所

※注1…腸内で増殖して下痢や腹痛、おう吐などを引き起こす病原性原虫／注2…発症すると下痢や腹痛などを引き起こす感染性原虫／注3…酸素のない条件下で生育する耐性の強い細菌

平成25年度の検査結果について

昨年度の検査では、厚生労働省が定める50項目と独自項目の3項目を実施。全項目が基準値に適合し、「安全でおいしい水」であることが確認されました。今後も適正な管理に努め、良質な水を提供します。

◆平成25年度高室浄水場検査結果(主な項目のみ)◆

分類	検査項目	検査結果 (下段は基準値)
病原生物	一般細菌(一般的な水の清浄度を示す)	0コロニー (1ml中100コロニー)
	大腸菌(し尿、下水などによる汚染の疑いを示す)	検出されず
基礎的性状	pH値(汚染などによる水質変化の指標。pH7が中性)	最大値7.7、最小値7.2 (5.8以上8.6以下)
	味(地質、海水などの混入に起因する)	異常なし
	臭気(藻類など生物の繁殖、工場排水などの影響を示す)	異常なし
	色度(水の色程度の程度を示す)	1.4度 (5度以下)
	濁度(水の濁りの程度を示す)	0.1度未満 (2度以下)
味覚	塩化物イオン(高濃度に含まれると味覚を損なう原因になる)	2.8mg (1ℓ中200mg以下)
	カルシウム、マグネシウムなど【硬度】(適量の硬度(10~100)は飲料水として美味)	12mg (1ℓ中300mg以下)
	蒸発残留物(水を蒸発させたときに得られる残留物)	44mg (1ℓ中500mg以下)

◆上記以外に43項目の検査を行っており、すべての基準値をクリアしています。
◆上記検査結果数値は、平成25年4月から26年3月までの最大値を記しています。
◆各検査対象施設の検査結果は、市ホームページに掲載しています。



保存・活用に向け千葉家住宅を視察する委員ら

**遠野の宝「千葉家住宅」を未来へ
保存活用考える委員会設置**

国の重要文化財「千葉家住宅」(綾織町)の保存や活用を検討する「重要文化財千葉家住宅保存活用委員会」は4月26日に設置され、第1回の会議が市立図書館で開催されました。専門家や委員、市関係者ら22人が出席。現地を視察し、基本方針や今後の計画を確認しました。

会議で本田市長は「遠野の宝である千葉家に光をあてる

ためご指導願いたい」とあいさつ。河東義之かとうよしのぶ委員長は「千葉家は南部曲り家を代表する民家として全国的にも有名であり、その価値を生かす方法を検討していきたい」と話しました。

同委員会は視察の結果や市民の意見などをまとめ、平成27年度内に「保存活用基本構想」を策定。平成28年度から修理工事に着手する予定です。

**遠野牛の生産強化などを議論
六次産業化合同研修会開催**

市とイトーヨーカ堂、エスプーズの3者が連携して生産している「いわて遠野牛」の販路拡大などについて考える「六次産業化モデル合同研修会」は5月9日、市畜産振興センターで初開催されました。

本年4月に設置した市6次産業推進本部が企画し、市や農協、イトーヨーカ堂、遠野牧場の担当者や市内の生産者ら30人が出席。遠野牛の取り

組みや、市の畜産業の現状について報告されたほか、品質向上や消費者ニーズに応じた商品開発などについて話し合いました。意見交換会では、出席者から「自分が育てた牛が消費者にどう評価されているのか知りたい」「生産、流通加工、販売の各担当者が積極的にコミュニケーションを図るべき」といった意見が出され、今後の取り組みについて活



活発に意見を交わす遠野牛の生産関係者ら

発に議論。菊池孝二きくちこうじ本部長(副市長は「今後も情報交換の場を設け、官民が連携して生産力向上と販路拡大を目指したい」と意気込みました。

市消防演習で各種訓練を実施 消防団員ら防災意識高める

平成26年度市消防演習は5月25日、早瀬川緑地公園などで行なわれました。団員や婦人消防協力隊員、遠野小少年消防クラブ員ら総勢730人と消防車両63台が集結。参加者は各種訓練を通じて防災意識を高めました。

団員らは穀町を分列行進し、緑地公園では小隊訓練や消火・放水訓練、ラッパ隊によるドリル演奏などを実施。



上/一糸乱れぬ消防操法を披露する婦人消防協力隊員
左/県防災ヘリとの連携訓練も実施されました

お知らせ

本年4月に施行した「市防災基本条例」を解説するパンフレット(下図)を、6月中旬に全戸配布します。ぜひ、ご覧ください。



また、昨年の全国女性消防操法大会で敢闘賞を受賞した婦人消防協力隊第8分隊がポンプ操法を披露したほか、第8分団第6部が県防災ヘリと連携して救出搬送訓練も行いました。団員らは統率感ある正確な訓練を繰り返し、火消魂くわいが地域に根付いていることを示しました。

井手純いであき団長は「安心安全を守るため、より一層訓練に励んでもらいたい」と呼び掛け、統監の本田市長は「震災では、人や地域のつながりの大切さを学んだ。自助・共助・公助の力を強め、災害に強いまちづくりを進めたい」と決意を新たにしました。